

第6祖 源信和尚の教え①



【惠心僧都像】
[南北朝時代、
滋賀・聖衆来迎
寺]

源信広開一代教
偏帰安養勸一切
専雑執心判浅深
報化二土正弁立

令和5年12月10日(日)
第36回 信行寺仏教講座

■著作

主著『往生要集』は天台の教えに立脚し、特に「念仏」の教えに焦点を絞って、極楽往生の思想や実践を体系化した書物である。本書は往生浄土の思想が体系化されており、法然聖人や親鸞聖人など後世の浄土教者に多大な影響を与えた。その他の著作には、『一乗要決』『阿弥陀経略記』などがある。



源信和尚が生きた時代

源信和尚(942-1017)は平安中期の僧侶で、藤原氏が摂関政治によって政治実権を独占した時代。「この世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたることもなしと思へば」の詩で有名な藤原道長(966-1028)は、晩年『往生要集』を熟読し、阿弥陀如来の浄土往生を願った。



また、道長の娘・彰子の家庭教師であった紫式部にも浄土信仰がみられる。『源氏物語』に登場する「横川の僧都」のモデルは源信和尚といわれている。



源信和尚の章

- ①浄土教を勧める
- ②専修と雑修の浅深を判定
～報土と化土の分別～
- ③専修をすすめて利益を示す

①浄土教を勧める

源信広開一代教
偏帰安養勸一切

書き下し文

源信広く一代の教を
開きて、ひとへに安
養に帰して一切を勧
む。

101 源信広開一代教

・広開：広く究めること

・一代教：釈尊が一生涯に
説かれた教え

源信和尚は、釈尊の
説かれた教えを広く
学ばれて、

現代語訳

源信和尚は、釈尊
の説かれた教えを
広く学ばれてひと
えに浄土を願ひ、
また世のすべての
人々にもお勧めに
なった。

源信和尚の功績

- ◆ 精力的な執筆活動
→ 160点もの著作が和尚の撰述と伝えられる。

102 偏帰安養勸一切

・ 帰… 帰命のこと。心から信じて敬う意。

・ 安養… 阿弥陀仏の浄土

ひとえに浄土を願ひ、
また世のすべての人々
にもお勧めになった。

源信和尚の著作

真撰（実際の撰述）は以下の17点と考えられている。

- ① 『因明論疏四相違略註釈』 3巻 (978年)
- ② 『往生要集』 3巻 (985年)
- ③ 『二十五三昧式』 1巻 (986年)
- ④ 『要法門』 3巻 (986年)
- ⑤ 『二十五起請 (8箇条)』 1巻 (986年)
- ⑥ 『同 (12箇条)』 1巻 (988年)
- ⑦ 『普賢講作法』 1巻 (988年)
- ⑧ 『尊勝要文』 1巻 (994年)
- ⑨ 『六即義私記』 1巻 (996年)
- ⑩ 『菩提心義要文』 1巻 (997年)
- ⑪ 『大乘対俱舍抄』 14巻 (1005年)
- ⑫ 『一乗要決』 3巻 (1006年)
- ⑬ 『靈山院釈迦堂毎日作法』 1巻 (1007年)
- ⑭ 『白骨観』 1巻 (1011年)
- ⑮ 『願文』 1巻 (1013年)
- ⑯ 『俱舍論頌疏正文』 1巻 (1013年)
- ⑰ 『阿弥陀経略記』 1巻 (1014年)

② 専修と雑修の浅深を判定 (報土と化土の分別)

現代語訳

さまざまな行をまじえて修める自力の信心は浅く、化土にしか往生できないが、念仏一つをもつぱら修める他力の信心は深く、報土に往生できると明らかに示された。

専雑執心判浅深
報化二土正弁立

書き下し文

専雑の執心、浅深を判じて、報化二土まさしく弁立せり。

自力修行の構造

功德がたまると・・・

功德
功德
功德
功德

称名念仏だけでなく、種々の行（諸行）を修することで功德を積んでいく。

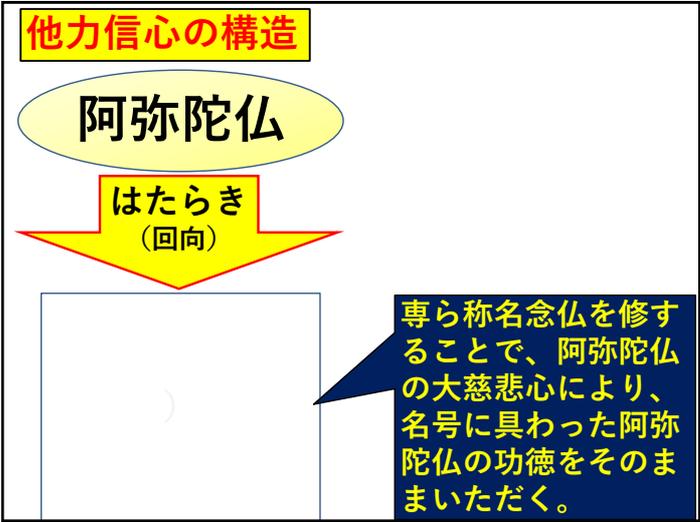
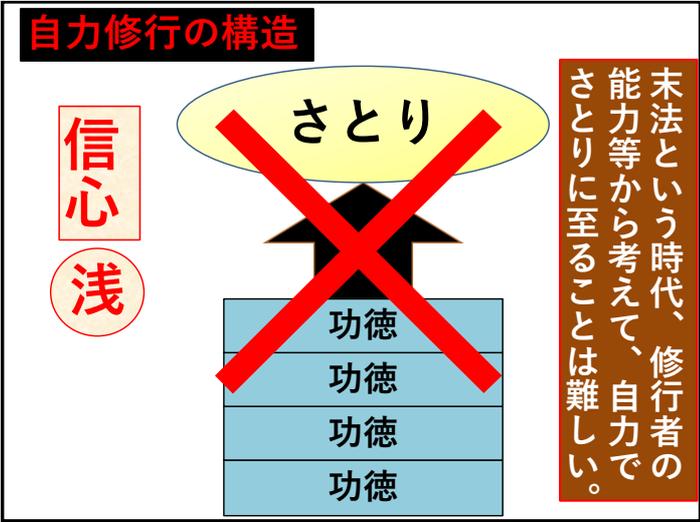
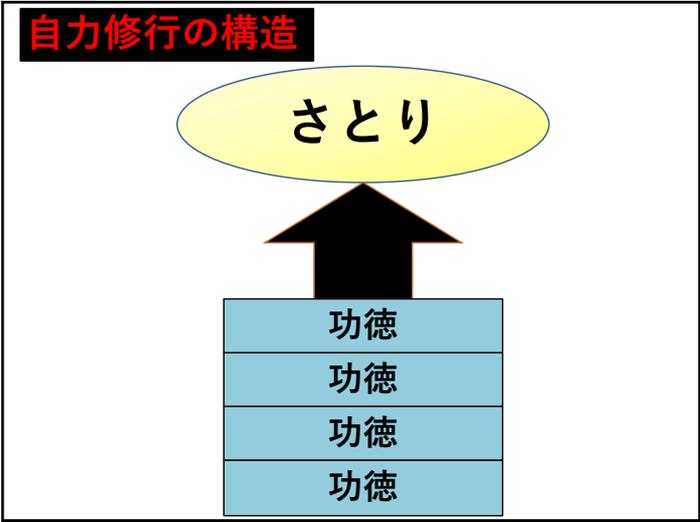
103

専雑執心判浅深

- ・専：専修 || 称名念仏一行を修する（他力）
- ・雑：雑修 || 種々の行を雑えて修し、純一でない（自力）

- ・執心：堅く動かない心 || 信心

さまざまな行をまじえて修める自力の信心は浅く、化土にしか往生できないが、



104
報化二土正弁立

・**報化二土**…

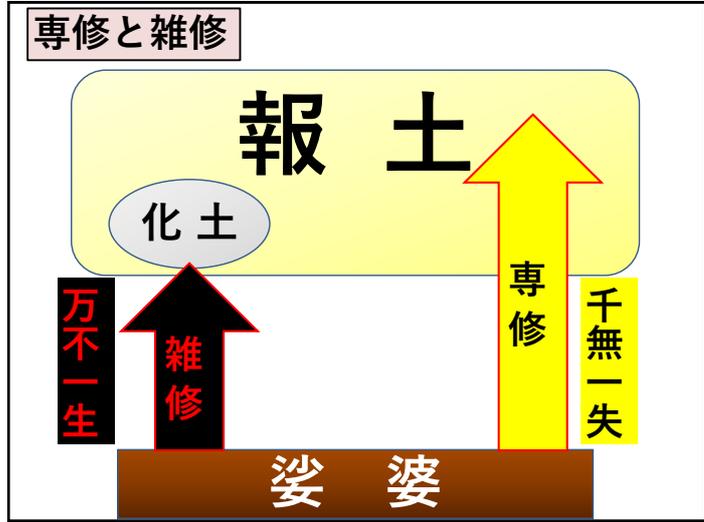
願に報いて建立された**眞実**の浄土である**報土**と、仮に設けられた方便の浄土である**化土**という二種の浄土。

念仏一つをもつばら修める他力の信心は深く、報土に往生できると明らかに示された。

專修のひとをほむるには
千無一失とをしへたり
雜修のひとをきらふには
万不一生とのべたまふ

『高僧和讃』「源信讚」(註五九四頁)

源信和尚は、念仏をもつばら修める人をほめ、眞実の浄土に往生できないものは千人に一人もいないと教え、さまざまな行を修める人を嫌い、眞実の浄土に往生できるものは万人に一人もいないといわれた。



本日のポイント

- ☆阿弥陀仏の浄土を、眞実報土と方便化土に分類された。
- ☆種々の行を修する雜修（自力）は、信心が浅く化土に往生し、称名念仏一つを修する專修（他力）は、信心が深く報土に往生する。

⇒ 自力と他力によって生まれていく浄土の違いを示すことによって、他力信心を勧める。